

とうきょう すくわくプログラム活動報告①

草苑幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

命のつながり

<テーマの設定理由>

”広い園庭の中で、様々な植物や生きものに触れることができる環境を活かし「命のつながり」をテーマとして設定する。

子どもたちは園庭にある葉や花、実を日頃から観察したり遊びに使っている。

球根から育てたチューリップに種があることを初めて知った子どもたちは、すべての植物に種があるかもしれないと興味を持ったことから、種や様々な植物について興味を子ども達の興味関心を更に深めるため。”

2. 活動スケジュール

・「お庭のどこにあったの?」「どこに種があるの?」「どうして種だと思う?」「この種どうしようか」を問として設定する。

・環境設定として、収穫した種を種類別に保管する入れもの、顕微鏡、虫眼鏡、図鑑、カメラや様々な紙や鉛筆、パソコン、ipad や OHP を、廊下や保育室など身近に置いておく。

子どもたちが興味を持った時に撮影や拡大して観察できるようにする。

・種ではないかと感じたものを集め、どの部分が種なのかを顕微鏡などで観察し、特徴や落ちていた場所などからなんの植物の種なのかを探求する。図鑑をみたり子どもたち同士の話し合いでさらに深めていく。写真や描画で記録する。

・帰りの会の前に、今日発見した種について子ども同士が振り返りを行い、午後は子どもたちの撮った写真を印刷し、子どもたちの言葉をまとめて、保護者へのお便りにしたり、掲示板に貼って、共有していただく。職員の報告会で、職員にも共有する。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等

4月:たんぽぽ・チューリップ

咲いているたんぽぽの綿毛を見た子が、「たんぽぽの種はどれなの？」と疑問を持ち、みんなでたんぽぽ摘み、たんぽぽの観察を行った。綿毛の先が種でないかという子もいれば

綿毛が種で飛んでいったところに花が咲くという子もいた。電子顕微鏡で見ると、花びらの模様や綿毛の様子がよくわかり、もっといろいろなものを見てみたいと、葉っぱやほかの花びらを顕微鏡で見る姿があった。たんぽぽの描画を行い、たんぽぽの綿毛が上で種が下になっている絵が多く、種が下にある方が落ちて鼻を咲かせるという子がいた。5月にはたんぽぽに種を植えてみたが、うまく育たなかった。チューリップは花びらが落ちた後の茎をそのままにしていたところ、「なんで枯れているのに抜かないの？」という質問があった。みんなで話し合いをし、ひまわりの種も枯れるまで待ってとるでしょ、チューリップもじゃない？」という意見が出る。「チューリップには種はないのか？」という疑問が聞かれ、みんなで種探しをし、球根の絵も描いてみた。園芸の先生に質問して、種が球根になるまで6~7年かかることが割った。

5月:種、麦、サツマイモ苗

麦が植えられていたので色を見ながらきれいだと言っていた。麦の色が枯れた色になり、「さあ収穫しよう」と言ったら「収穫しても枯れているでしょ」と言う声が聞かれた。収穫後、麦でできている食物の話をし、どこが食べられるのかを話し合い、パンを作ろうという声も上がった。粒を数え、粉にしても全然足りないから植えたらどうかという意見が出た。これは種なのか？と疑問に思っているうちに、3歳の子が麦の粒を、カブトムシの幼虫がいる飼育箱にばらまいた。急いで集めたが、しばらくしてそこから目がたくさん出てきた。確信を得た子たちは、これを撒けば麦ができると言って11月に種の種まきを行う。

ほかの植物の種もみんなで観察し、どの種が度の花を咲かせるか相談してグループごとに発表をした。好きな花を選んで種まきをして育てた。グループごとに水やり当番を決めてお世話をした。綿、千日紅、マリーゴールドから種も取れて、来年植えたい、井出植えたいと喜んでた。

12月:麦は粒を植えたら麦になるのか

実験をするために植えてみた。芽が出て大きくなったが、まだ麦の穂先が出ていないので、「本当に麦なの？」と半信半疑であった。卒園式が終わり、今度遊びに来たら麦かどうか分かるねという話をしていた。

サツマイモは苗から植え、以前ジャガイモは種イモから植えた。「なんで同じお芋なのに植えるものが違うの？」問言葉が聞かれたが、掘り下げることができなかった。お芋掘りで根っこにお芋ができているのを見て、種イモみたいにちび芋を植えたら、サツマイモになるのではないかという話題になった。「ニンジン水を水につけて置いたら緑の葉っぱが出ていたのを見たことがある」という子がいて、サツマイモもやってみるか、ヒヤシンスも育てているし、と、いろいろな植物の育ちとつなげて発言する姿があった。

バードケーキを作り鳥が食べに来るようになった。園庭に糞が沢山落ちているのを見て、「黄色い糞はなつみかんを食べたからかな」という声が聞かれた。鳥の糞を観察し「でもウンチに種はないよ」

1~3月:ヒヤシンス

ヒヤシンスの水耕栽培をして花が咲いた。「お庭のヒヤシンスは、先生が植えたの？」「今までの年長さんが、お花が終わった後の球根を植えて花が咲いたのよ」というと「私たちも植えたい！」ということで花が終わった後の球根を植えた。あちこちにヒヤシンスを見つけ自分たちで写真を取る姿があった。



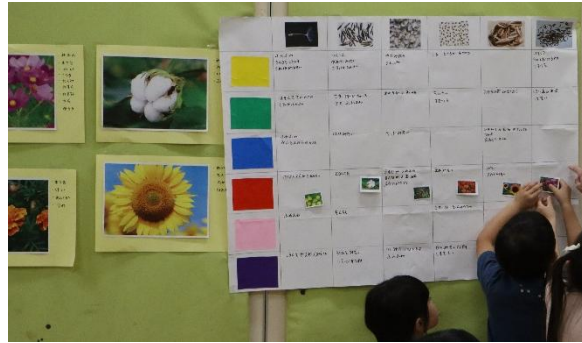
チューリップを掘り起こして種を探そう。ばらばらにして見つける



よく見て描く



葉を取って球根をネットに入れ乾燥させる。



たんぽぽの花びらを見ている



たんぽぽの綿毛を描く



麦の収穫



描画



麦の芽が出てきたかもしれない



ヒヤシンス発見



わたしたちも植えたい！



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

沢山の素材があると、一つひとつの疑問を掘り下げたり、子どもたちで調べたりすることがうまくできなかった。しかし、庭植物も今あるものから命をいただいているということが繋がって来ているようだった。

描画を行うことで、観察する目が養われているように思う。

描きながら「こういうふうに斜めになっていたよね」「枯れるとどれもぱさぱさして落ちるね」という共通点を見つけられた。

目で見るのと、レンズで見るのとでは違いが大きく、はじめはたんぼぼのどこを見ているのかわからない様子であったが、自由に動かしながら種を見つけて「やっと種発見」という声が聞かれた。

道具を使うことで、自分たちの目だけではわからないことが沢山あることに気づいたようだった。

まだ道具を使いこなすことはできていないが、今後はもっとみんなで共有するためのツールとして、また観察を深めるツールとして保育者がどんどん活用できるように、見たこと感じたこと発見したことを旧うするような時間やコーナーをつくと善いと思う。

子どもたちの描写力が素晴らしいのは、スキルというより、観察の目の鋭さではないかと思う。

命のつながりは、ヤゴや蝶の羽化の方が卵からかえるという意味で分かりやすいと思っていたが、観察や描画の機会を持つことで、子どもたちの自然な会話の中から、植物の命のつながりも感じていることが分かった。

教材が園庭に沢山あり、丁寧にできないこともあったが、道具を使うことによって子どもたちが曾於世界に入って行く実感が得られた。枯れているのに収穫するというのは、一見枯れたように見えるもののなかに命が存在していることを感じるよい機会になったと思う。